

ヤマハ株式会社
2017年3月期
決算説明会

2017年 5月 2日



決算概要

- 2017年3月期業績は、対前期減収も、5期連続の増益を達成
 - 楽器事業は、対前期為替影響、音楽教室移管影響で減収も中国が実質二桁成長等、各市場堅調で増益
 - 音響機器事業も、対前期為替影響で減収も、国内、北米、欧州の各市場は堅調に推移し、対前期増益で100億円超を達成
 - その他の事業は、対前期減収も、電子部品、ゴルフ事業等が好調を継続し、対前期大幅増益
- 当期利益は、対前期 対前回予想共に増益で過去最高益
 - 対前期では、繰延税金資産135億円の計上が主要因
 - 対前回予想では、子会社ののれんの一時償却あるも、リゾート施設の譲渡に伴う構造改革費用の戻りが主要因

2017/3期 通期業績概要



(億円)

	16/3	17/3	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	4,355	4,082	▲6.3%	4,050	+0.8%
営業利益 (営業利益率)	407 (9.3%)	443 (10.9%)	+8.9%	420 (10.4%)	+5.5%
経常利益 (経常利益率)	409 (9.4%)	449 (11.0%)	+9.8%	430 (10.6%)	+4.5%
当期利益 (当期利益率)	326 (7.5%)	467 (11.4%)	+43.2%	420 (10.4%)	+11.2%

為替レート (円)

売上高 (期中平均)	US\$	120	108	107
	EUR	133	119	118
利益 (決済レート)	US\$	121	108	107
	EUR	134	121	121

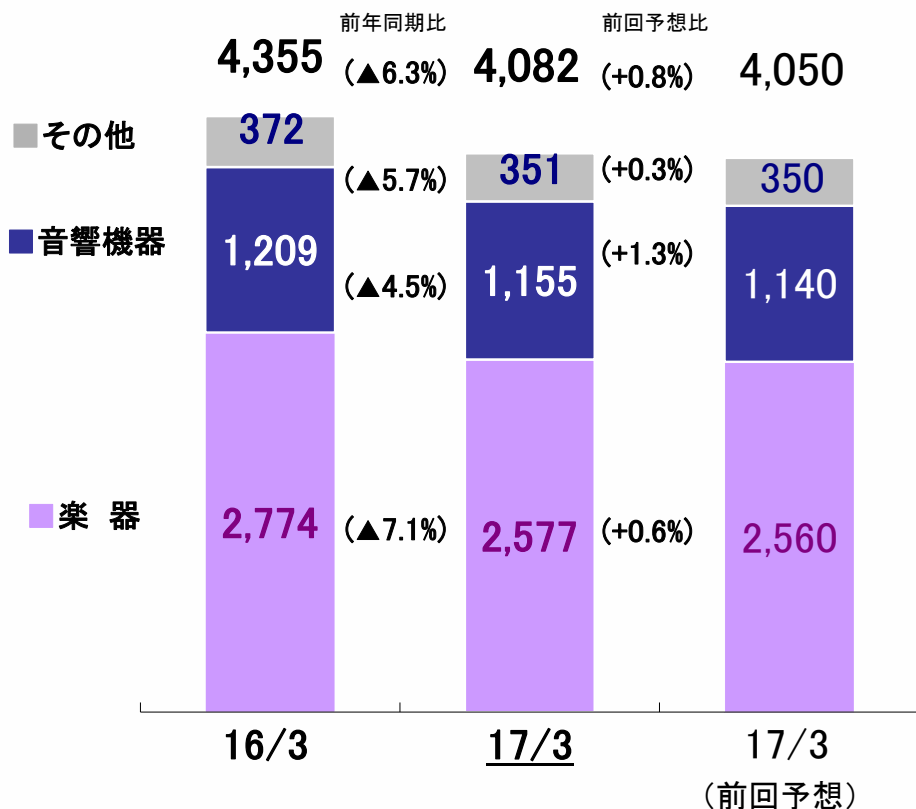
※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」

●前回予想は2017/2/3 発表

2017/3期 通期事業別業績



売上高

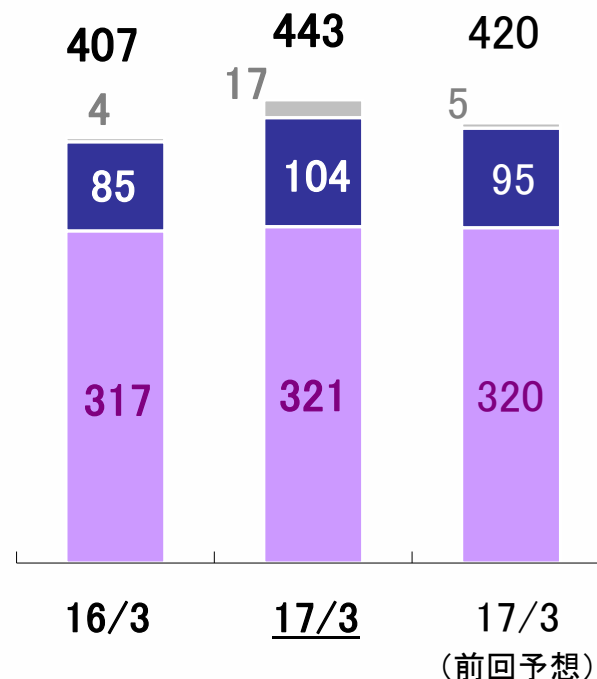


為替影響額 (億円)	
前期比較	▲334
前回予想比較	+26

為替影響額 (億円)	
楽器	▲222
音響機器	▲106
その他	▲6
楽器	+18
音響機器	+8
その他	+1

営業利益

(億円)



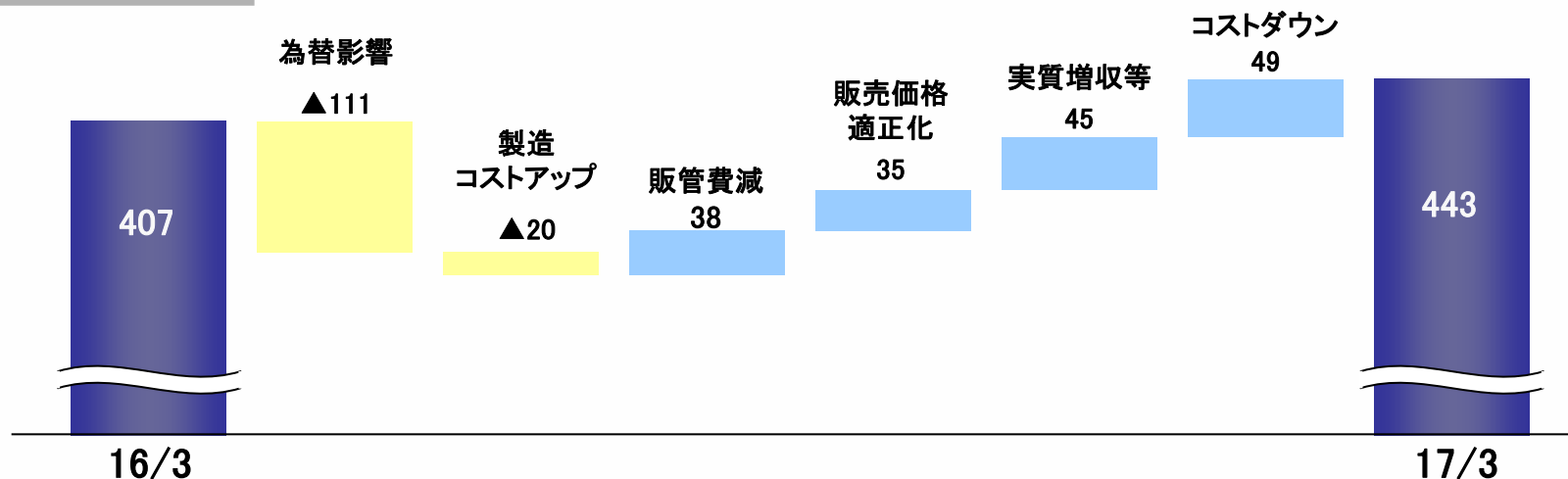
為替影響額 (億円)	
前期比較	▲111
前回予想比較	+4

為替影響額 (億円)	
楽器	▲86
音響機器	▲26
その他	+1
楽器	+3
音響機器	+1

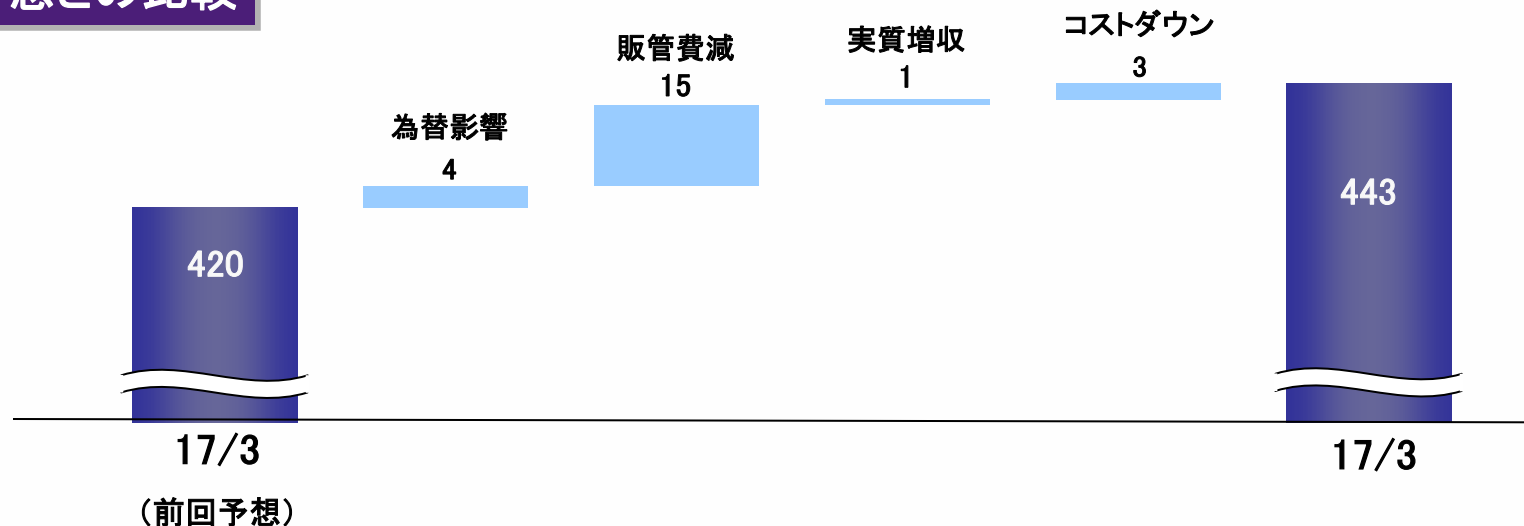
2017/3期 通期営業利益増減要因

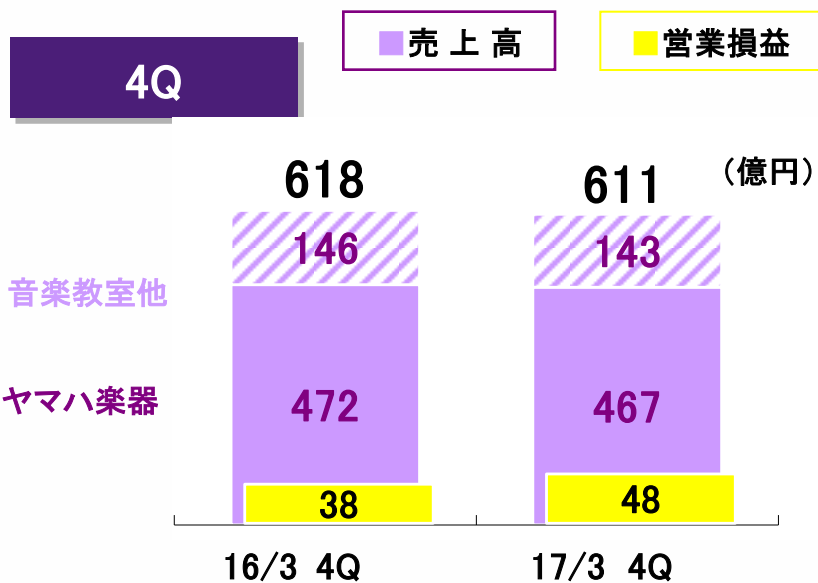
前期との比較

(億円)



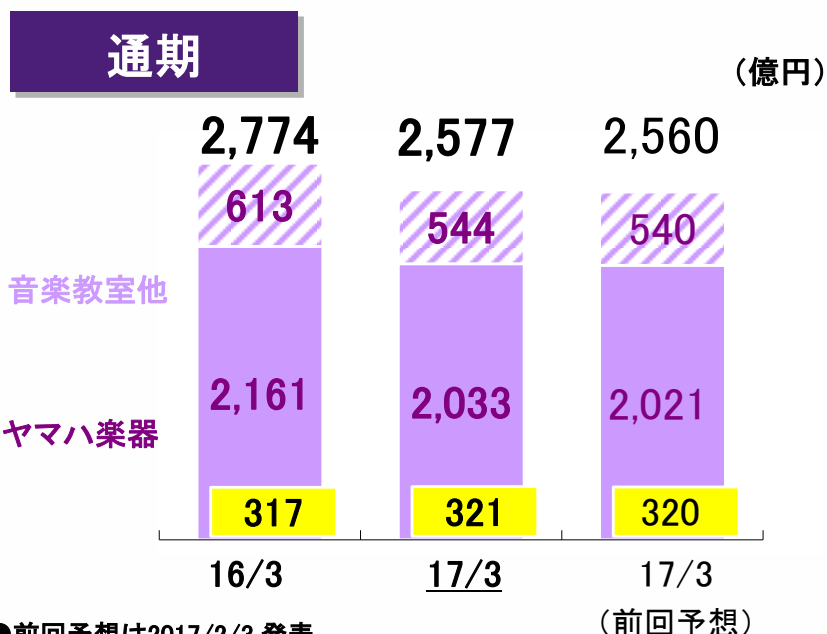
前回予想との比較





4Qの状況

- ・対前年同期減収も増益
- ・市場別には中国が対前年同期二桁成長、国内市場を除く各市場も堅調な推移
- ・商品別にはピアノ、電子ピアノが堅調
- ・損益面では、コストダウン、販売価格適正化、販管費減等で為替影響を吸収し対前年同期増益



通期の状況

- ・対前期減収増益
- ・市場別には中国が二桁成長
北米、欧州 その他市場も堅調な推移
- ・商品別にはギターが好調、主力のピアノ、電子ピアノも堅調な推移でほぼ全商品群が実質成長
- ・損益面では、コストダウン、販売価格適正化
実質増収、販管費減等で為替影響を吸収

●前回予想は2017/2/3 発表

*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

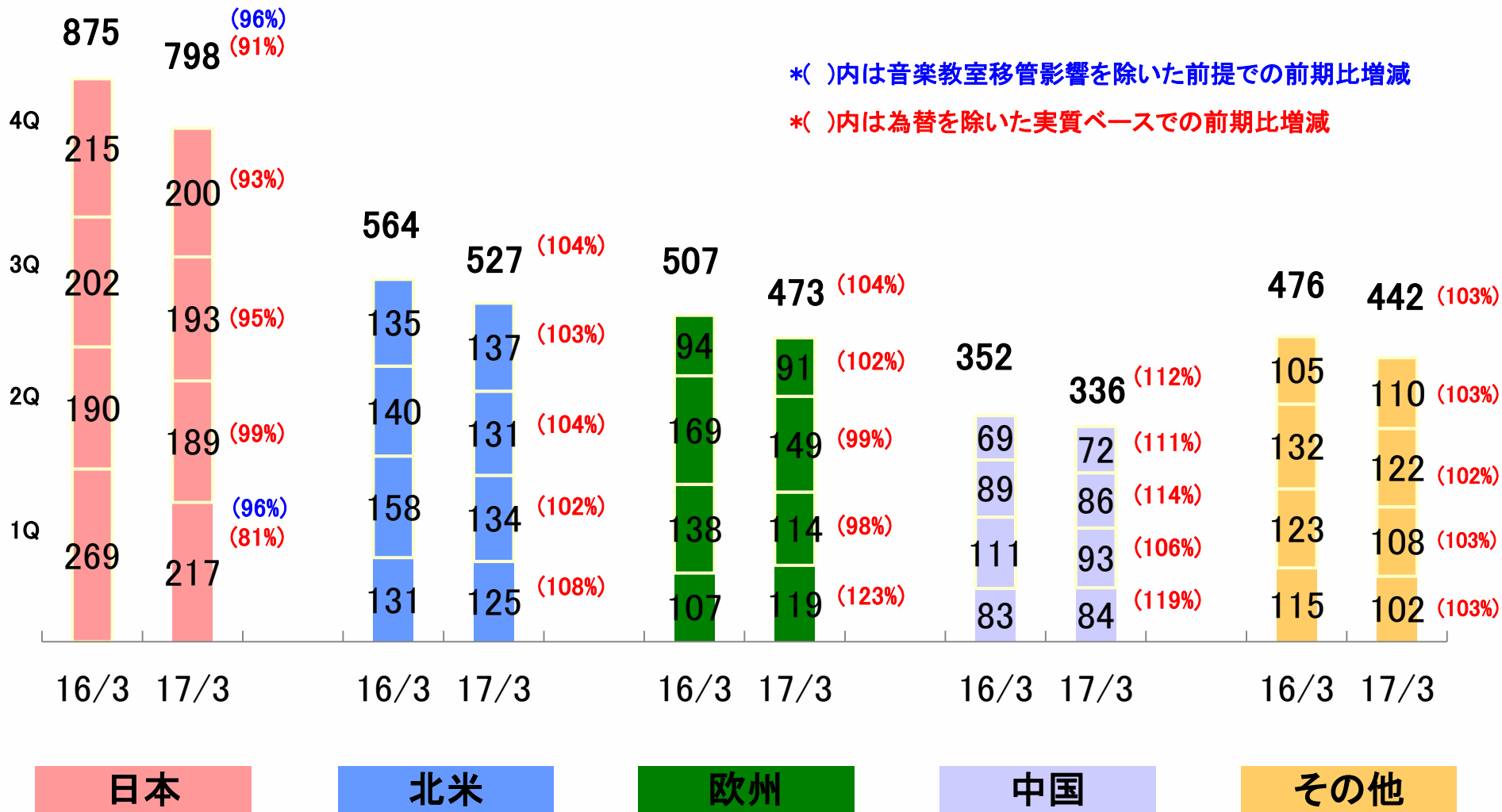
楽器事業(地域別の販売状況)

(ソフト、音楽教室等を含む)

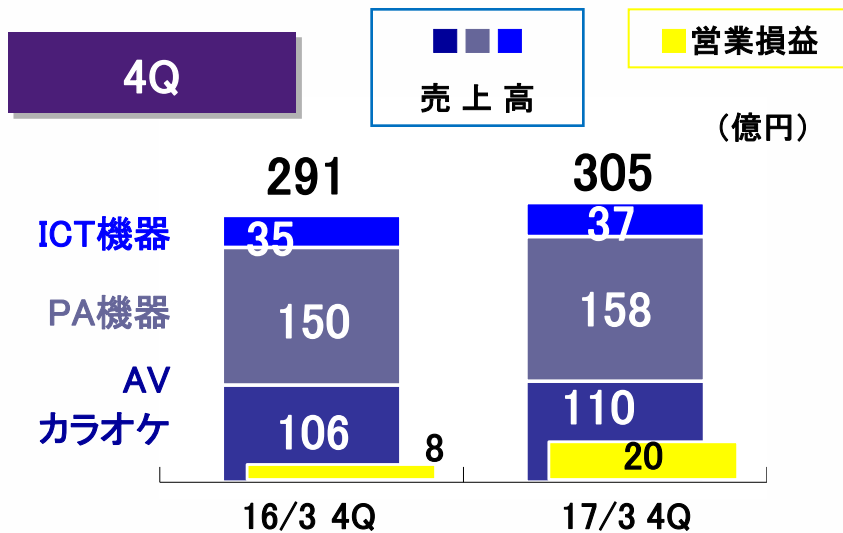


全市場計 通期売上高 2,577億円 (102%)

(億円)

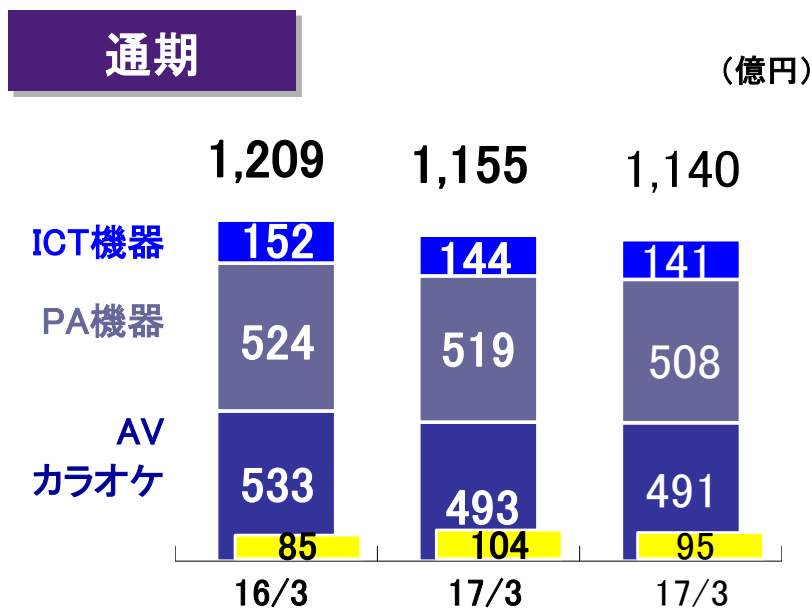


*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値



4Qの状況

- ・対前年同期増収増益
- ・市場別では、国内、北米が好調に推移
- ・商品別では、主力のAV、PA機器の好調な推移に加え、ルーター中心に通信機器も実質二桁成長
- ・損益では実質増収、コストダウン、販売価格適正化等で対前年同期増益



通期の状況

- ・対前期減収も増益
- ・市場別では、国内、北米がPA機器の実質二桁成長等で好調に推移
- ・商品別ではPA機器、ルーター等が好調
- ・損益は、実質増収、コストダウン、販管費減等で100億円超の営業利益を達成

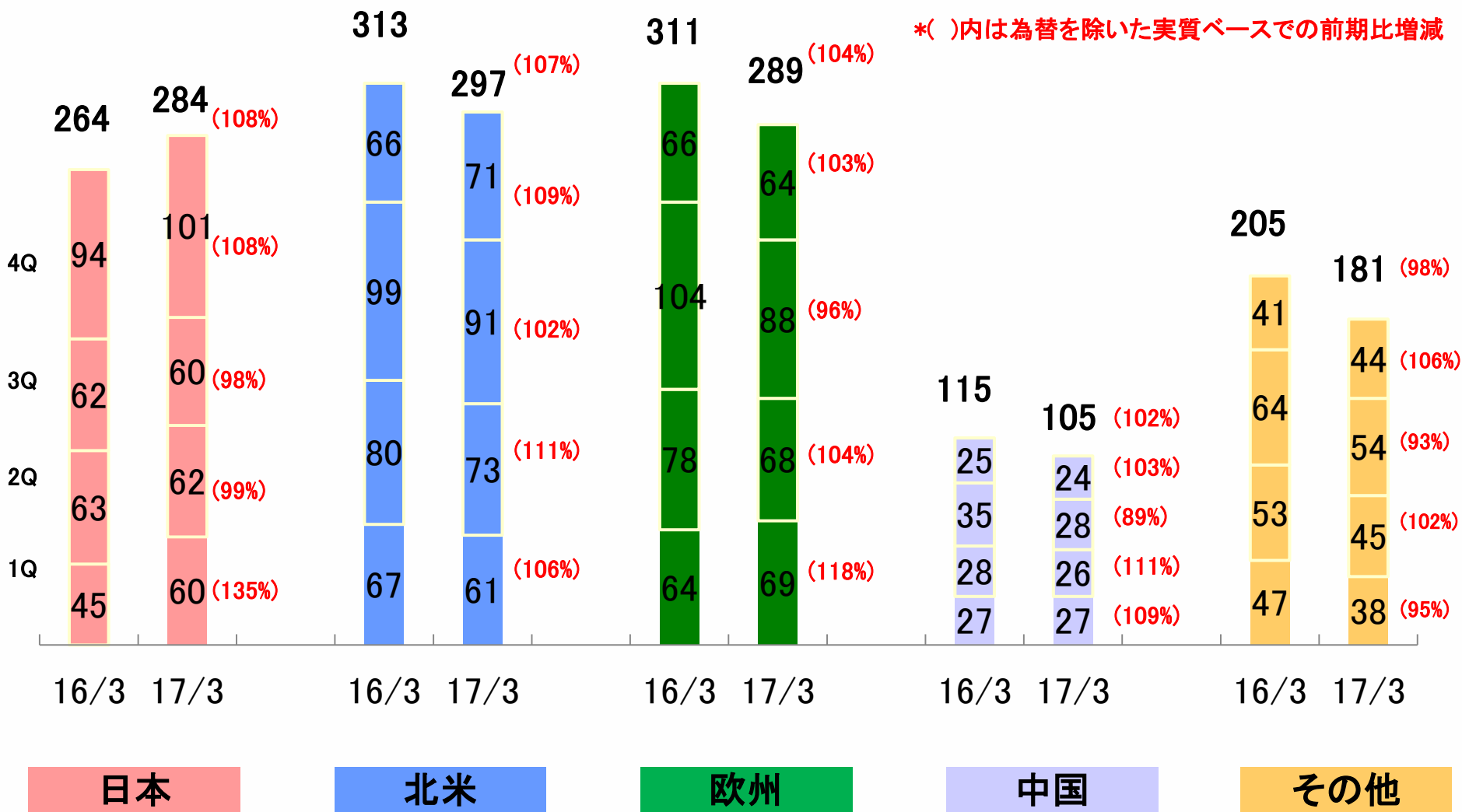
音響機器事業(地域別の販売状況)



全市場計 通期売上高 1,155億円 (104%)

(億円)

* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

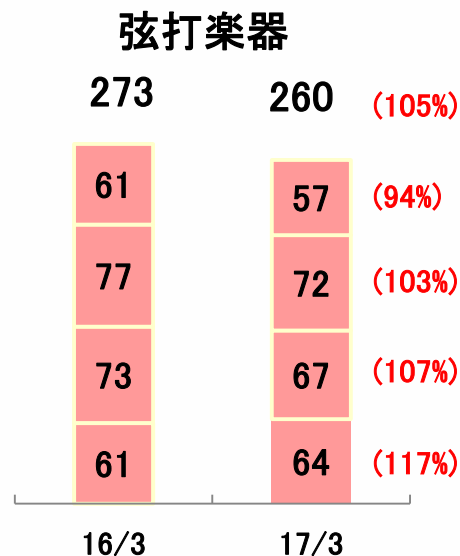
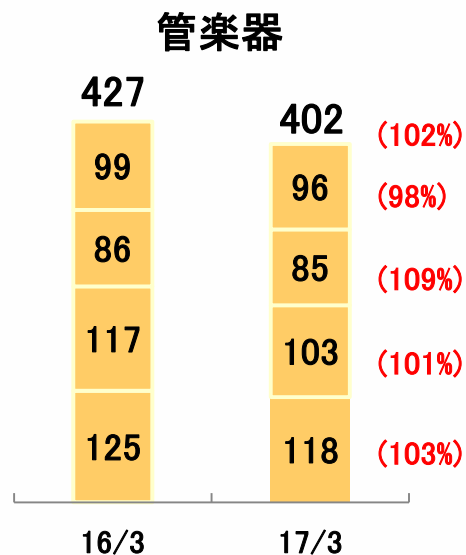
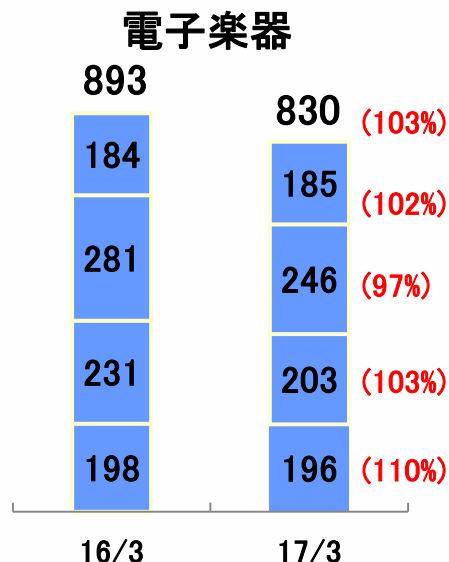
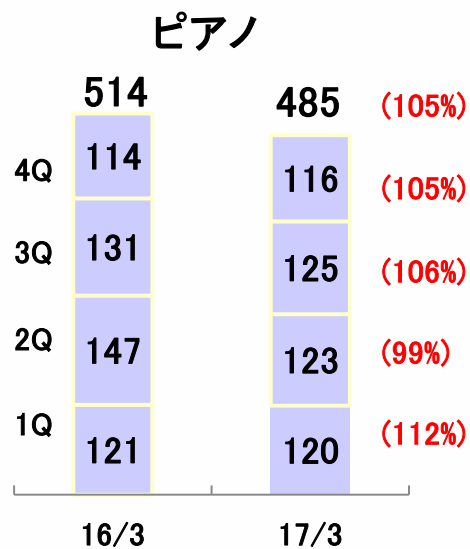


*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

楽器・音響機器事業(主要商品別販売状況)

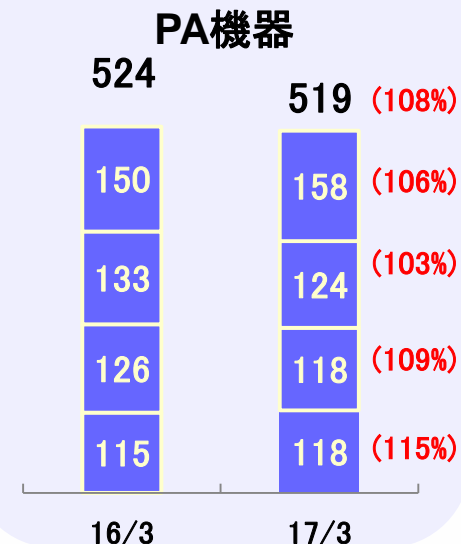
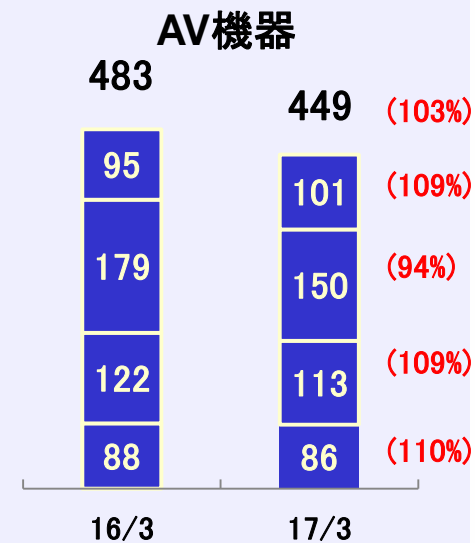


楽器事業



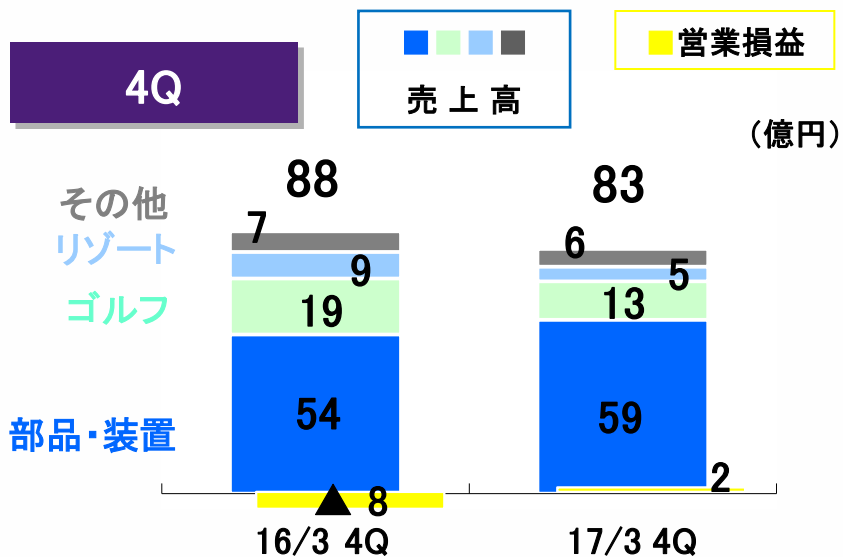
音響機器事業

(億円)



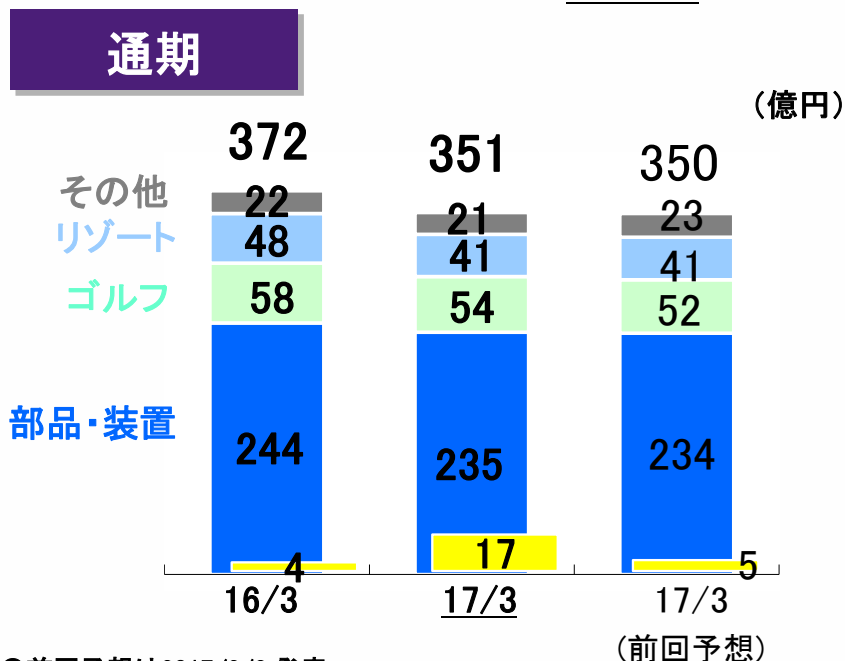
* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

その他の事業



4Qの状況

- ・対前年同期減収も損益黒字化
- ・前回予想から、電子部品の粗利増
製造損益良化、開発費抑制、経費減等に加え
ゴルフ新商品の好調な推移で損益改善



通期の状況

- ・対前期減収増益
- ・電子部品は、対前期減収も粗利増、経費減等で
対前期増益
- ・ゴルフも、新商品効果、国内シェアアップで増益
- ・自動車用内装部品は苦戦継続

* 部品・装置売上は電子部品 自動車用内装部品 FA機器等の合計額

業績予想前提

- 政治的な緊張等により、国際経済、市場環境に不透明感はあるものの、各市場堅調な推移を想定
 - 楽器事業は、中国、新興国市場の高成長を想定し、主力のピアノ、電子ピアノの着実な成長に加え、ギター等弦打楽器の成長を想定
 - 音響機器事業は、業務用音響を中心としたPA機器の成長継続とAV機器の着実な成長を想定
 - その他の事業は、部品・装置の成長等で、リゾート施設譲渡影響を吸収
- 為替前提は、US \$ 110円 ユーロ120円を想定

業績予想

- 対前期増収増益、営業利益は過去最高の485億円を予想

2018/3期 業績予想



➤2018年3月期は、対前期増収増益、過去最高の営業利益を予想

➤当期利益は、前期に繰延税金資産を計上した影響から減益

(億円)

	17/3	18/3予想	増減額	伸び率
売上高	4,082	4,270	+188	+4.6%
営業利益 (営業利益率)	443 (10.9%)	485 (11.4%)	+42	+9.5%
経常利益 (経常利益率)	449 (11.0%)	485 (11.4%)	+36	+8.0%
当期利益※ (当期利益率)	467 (11.4%)	390 (9.1%)	▲77	▲16.5%

為替レート (円)

売上高 (期中平均)	US\$	108	110
	EUR	119	120
利益 (決済レート)	US\$	108	110
	EUR	121	120

※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」

2018/3期 通期事業別業績予想



売上高

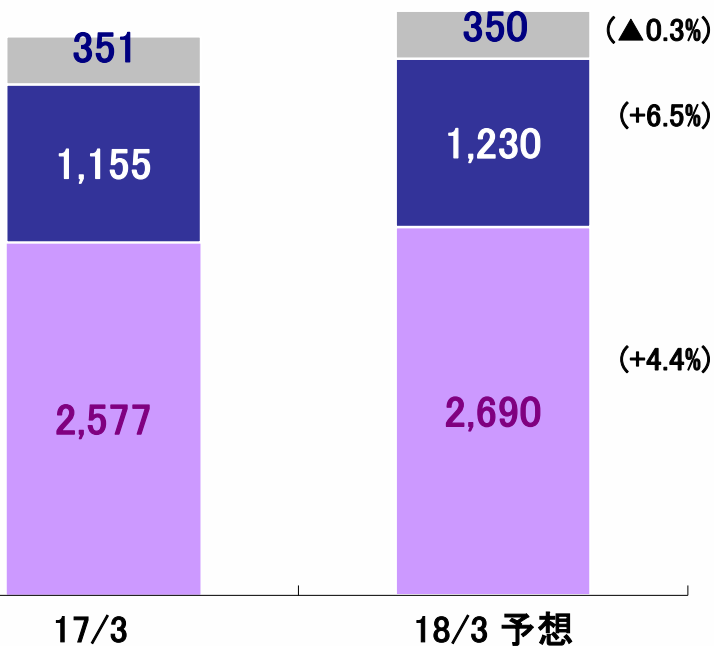
(億円)

前年同期比

4,082

4,270 (+4.6%)

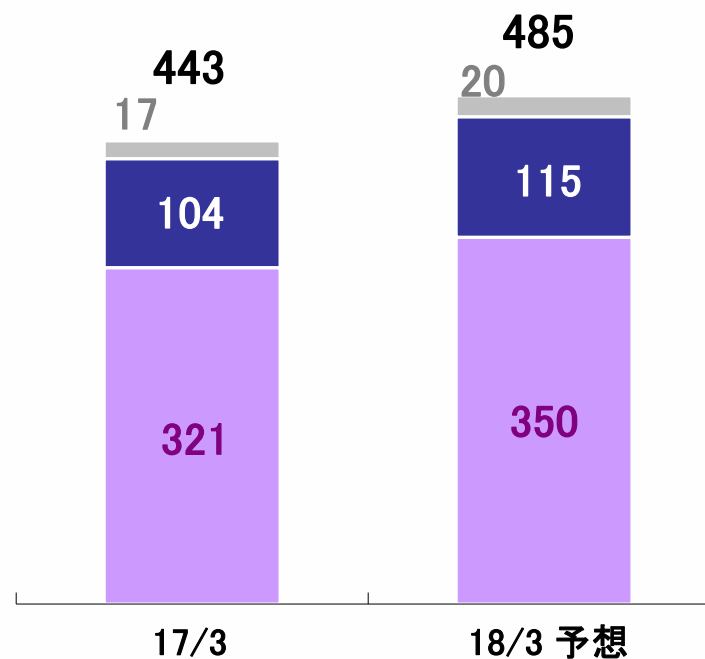
- その他
- 音響機器
- 楽器



為替影響額 (億円)	
前期比較	+37
	楽器 +24
	音響機器 +12
	その他 +1

営業利益

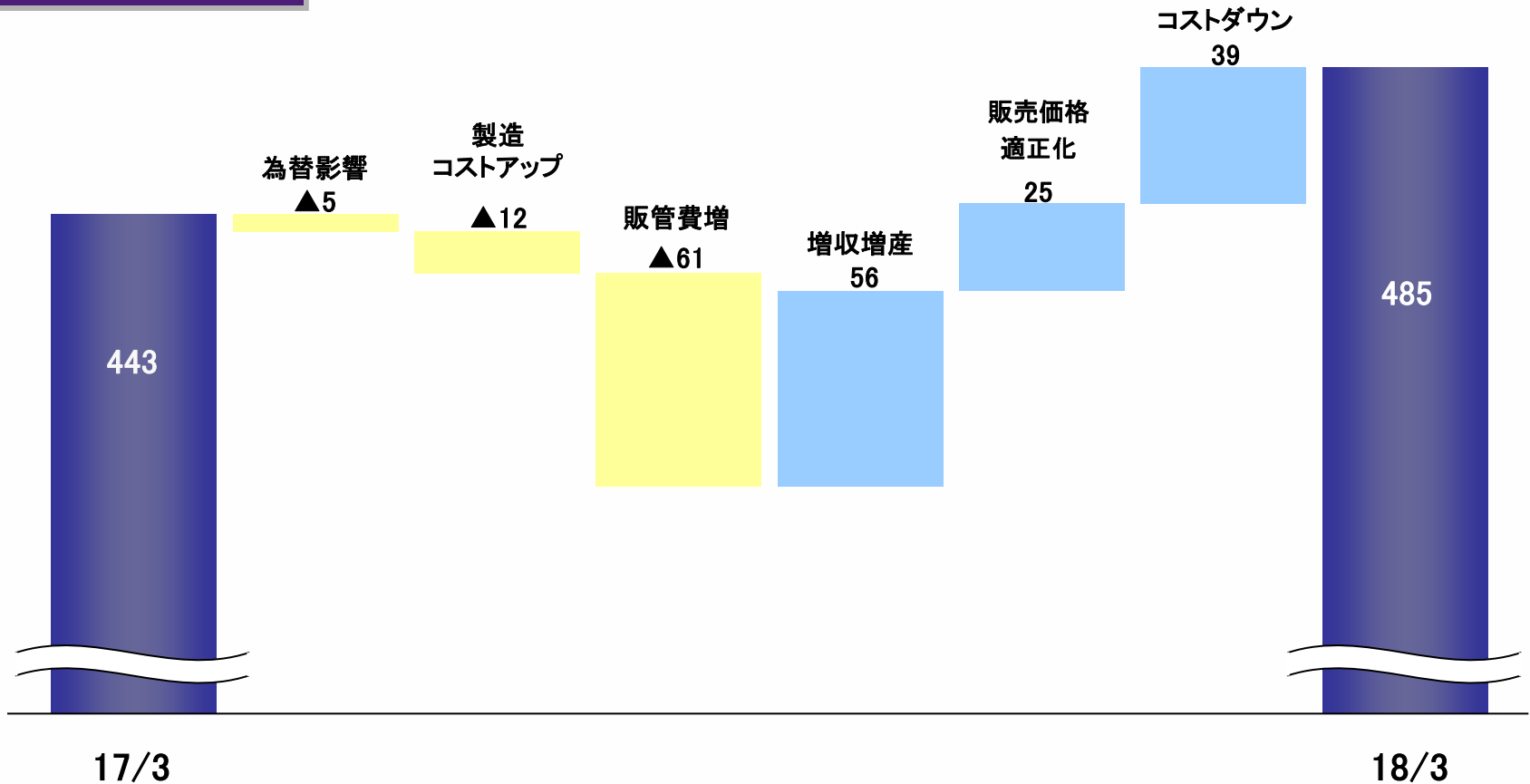
(億円)



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲5
	楽器 ▲2
	音響機器 ▲3

(億円)

前期との比較

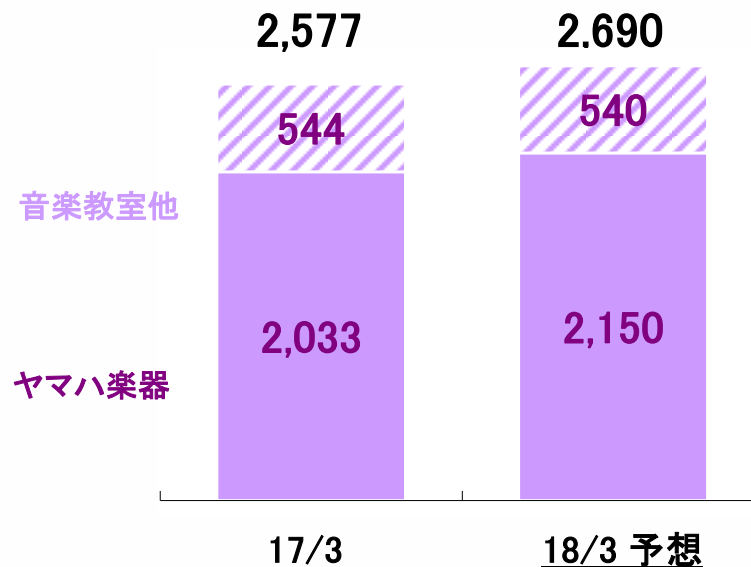


通期予想

- ・対前期増収増益を予想
- ・市場別には、中国の二桁成長継続と
その他市場での成長想定
- ・商品別には新商品投入の電子ピアノ、
ギター中心に弦打楽器の成長想定

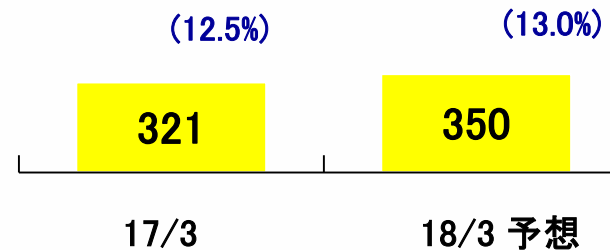
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



*()内は営業利益率

楽器事業(地域別の販売予想)

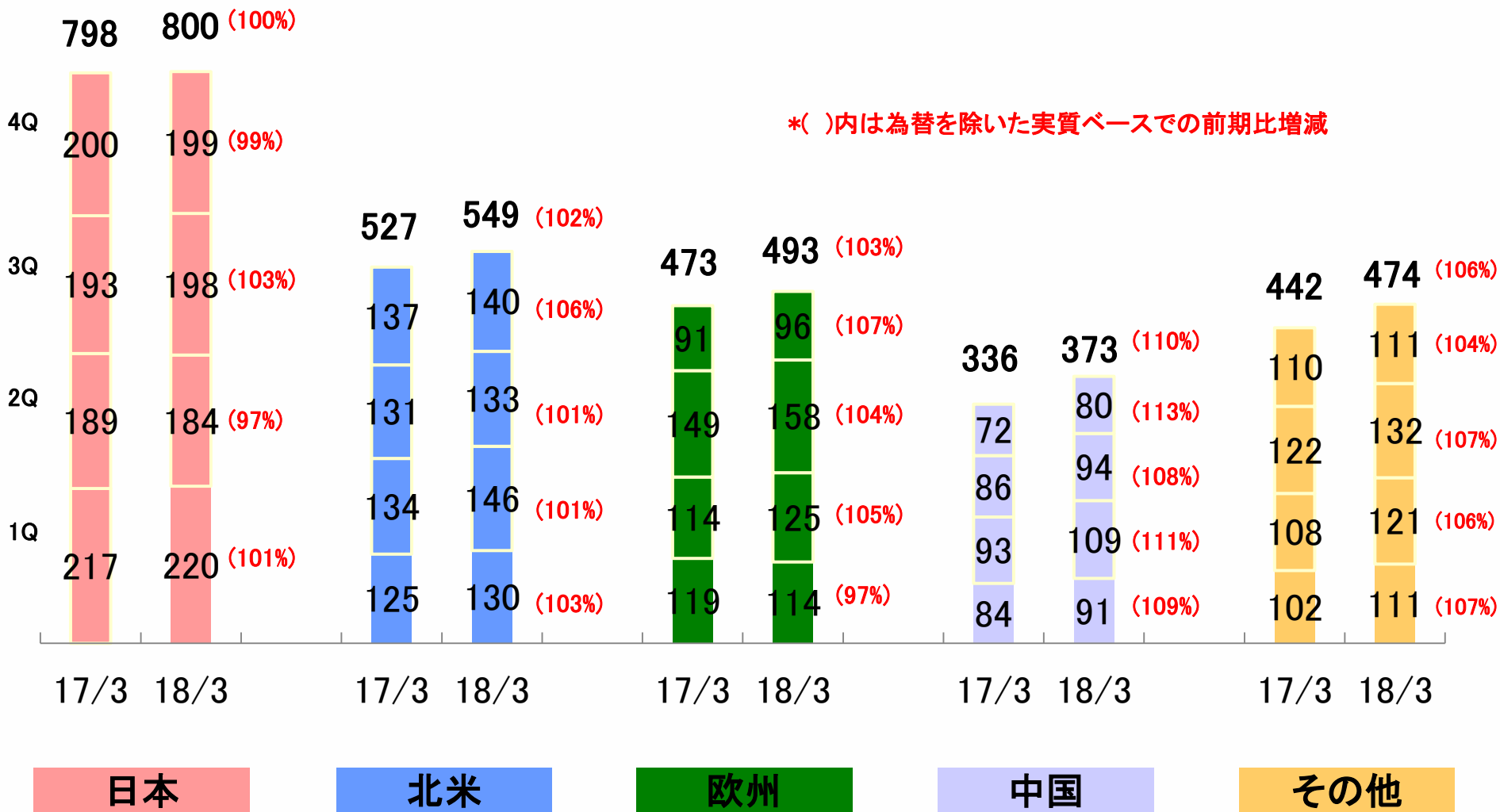
(ソフト、音楽教室等を含む)



全市場計 通期売上高 2,690億円 (103%)

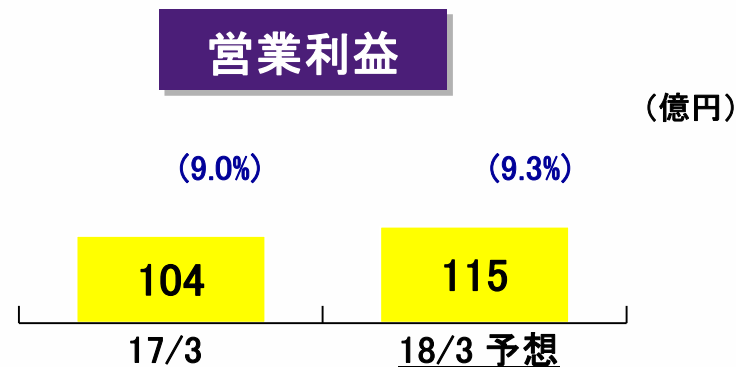
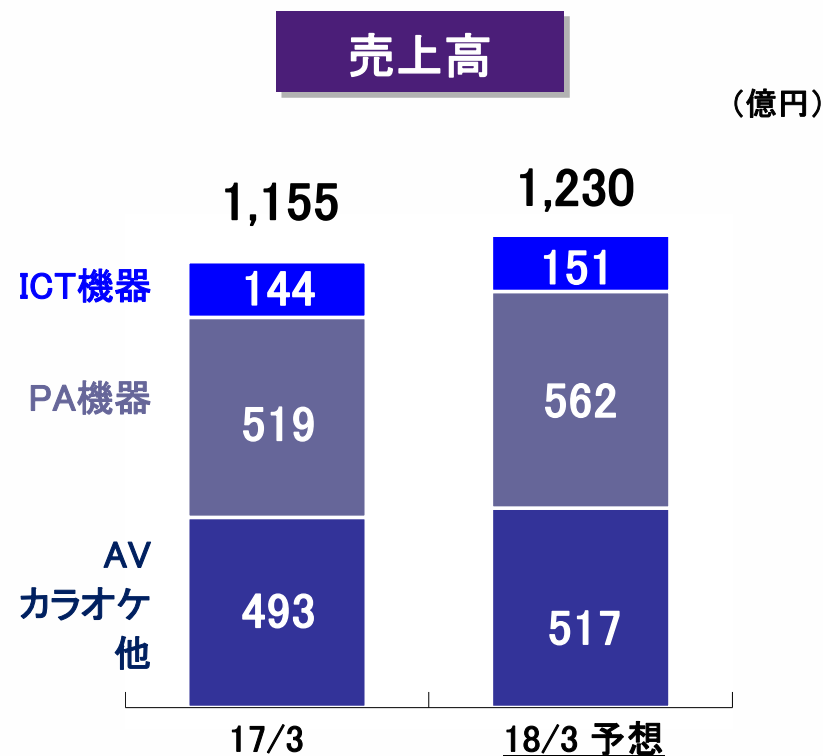
(億円)

*()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



通期予想

- ・対前期増収増益を予想
- ・業務用音響機器中心にPA機器の成長を想定
- ・AV機器のネットワークオーディオ
認知拡大による伸長
- ・会議システム機器の堅調な推移を想定



*()内は営業利益率

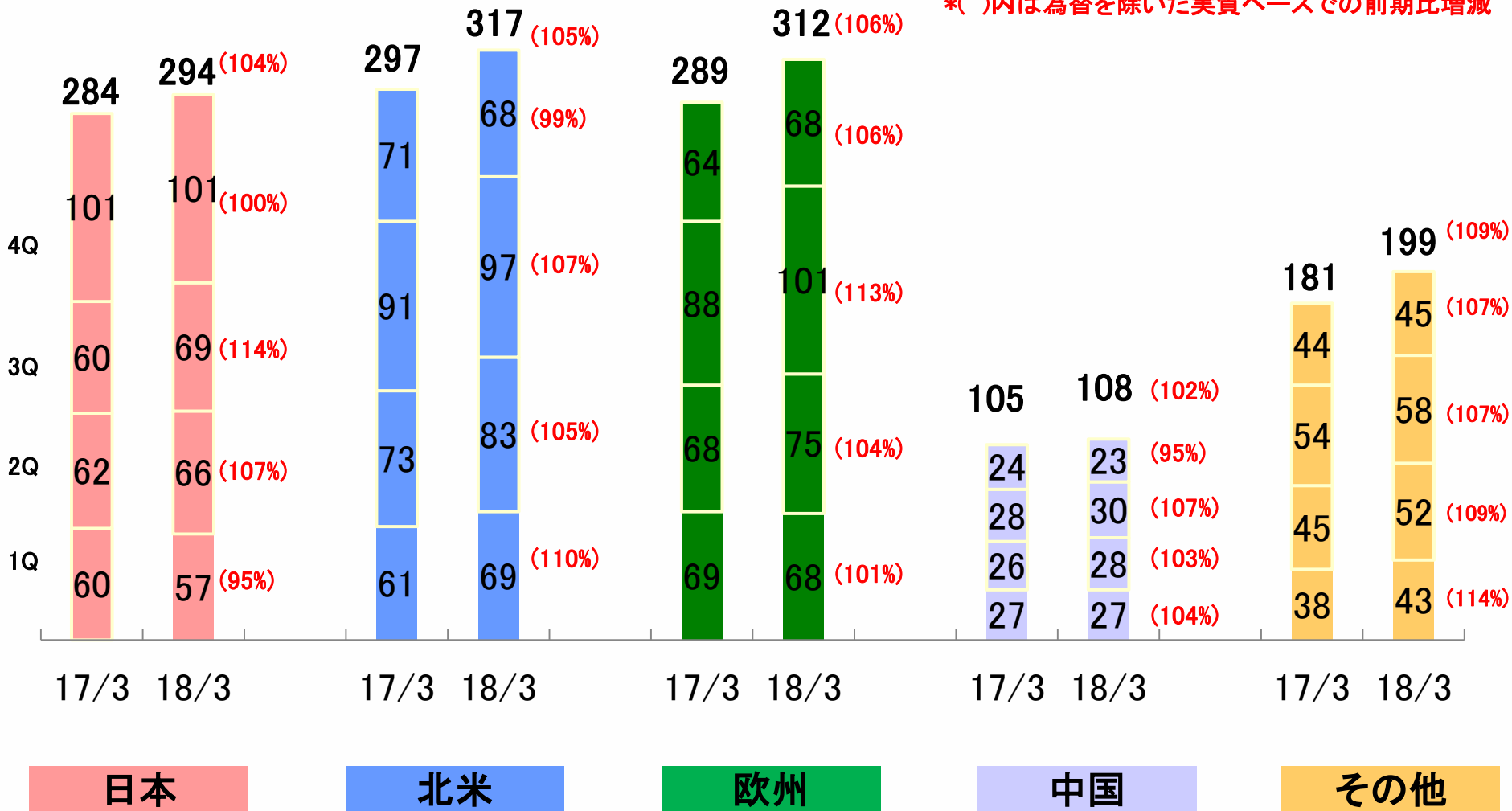
音響機器事業(地域別の販売予想)



全市場計 通期売上高 1,230億円 (105%)

(億円)

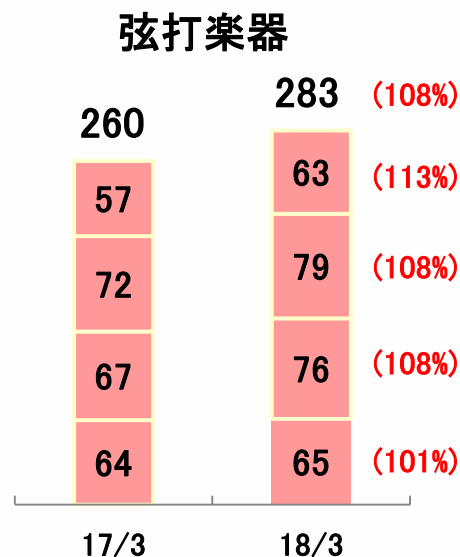
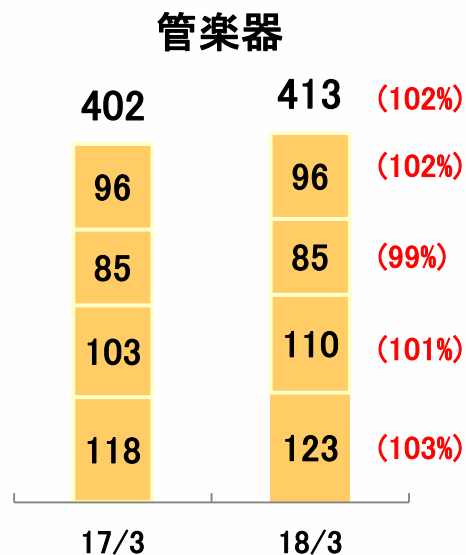
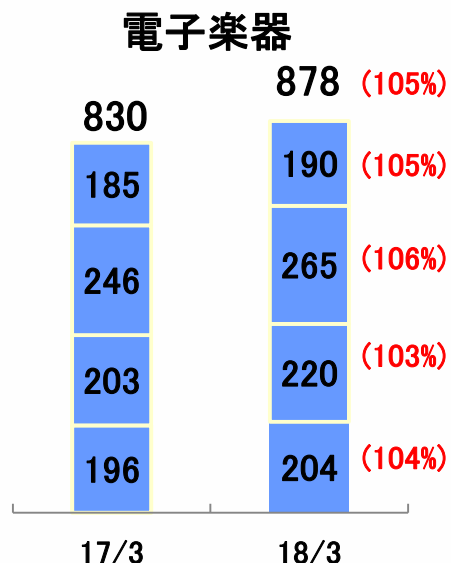
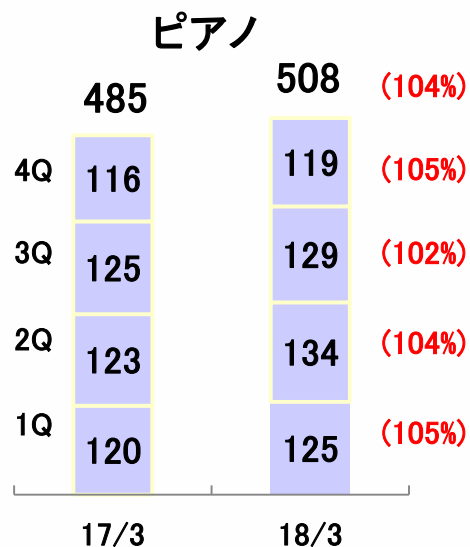
* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



楽器・音響機器事業(主要商品別販売予想)

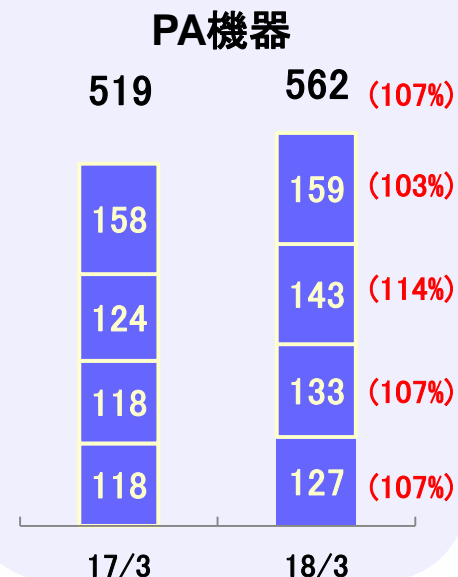
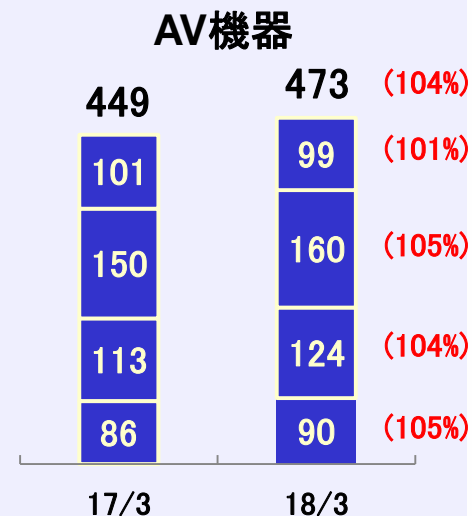


楽器事業



音響機器事業

(億円)



* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

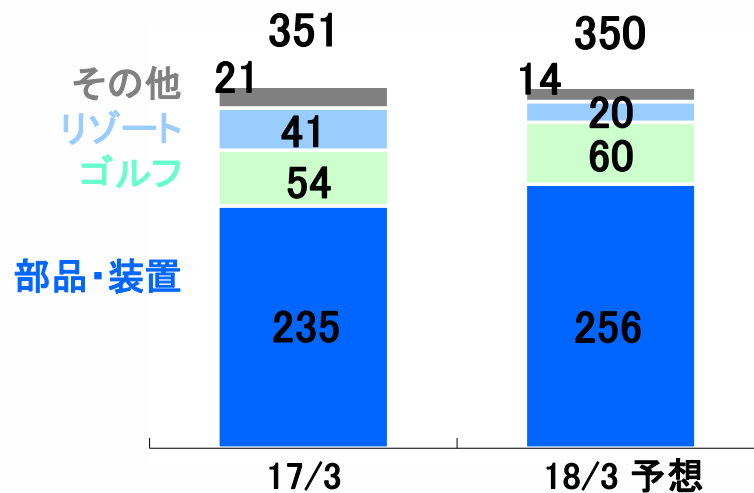
その他の事業（予想）

通期予想

- ・前期並みの売上 増益を予想
- ・リゾート施設の譲渡に伴う減収影響を
部品・装置事業、ゴルフで吸収
- ・損益は、リゾート事業の構造改革効果もあり増益

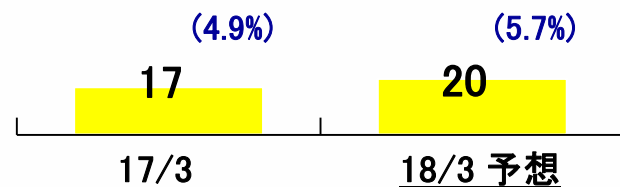
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



*()内は営業利益率

通期営業外損益、特別損益



(億円)	16/3 通期	17/3 通期	18/3 通期予想
営業外損益			
金融収支	27	35	31
その他	▲25	▲29	▲31
計	2	6	0
特別損益			
固定資産処分損益	83	35	▲1
その他	▲76	▲55	1
計	7	▲20	0
法人税他			
法人税等	95	87	120
法人税等調整額	▲6	▲127	▲24
少数株主利益	1	2	0
計	90	▲38	95

遊休資産売却 90
その他 ▲7

構造改革費用 ▲30
減損損失 ▲6
退職給付DC移管 ▲9
Revolabs
のれん一時償却 ▲15

のれん一時償却
Line 6 ▲45
Revolabs ▲23
固定資産減損 ▲8

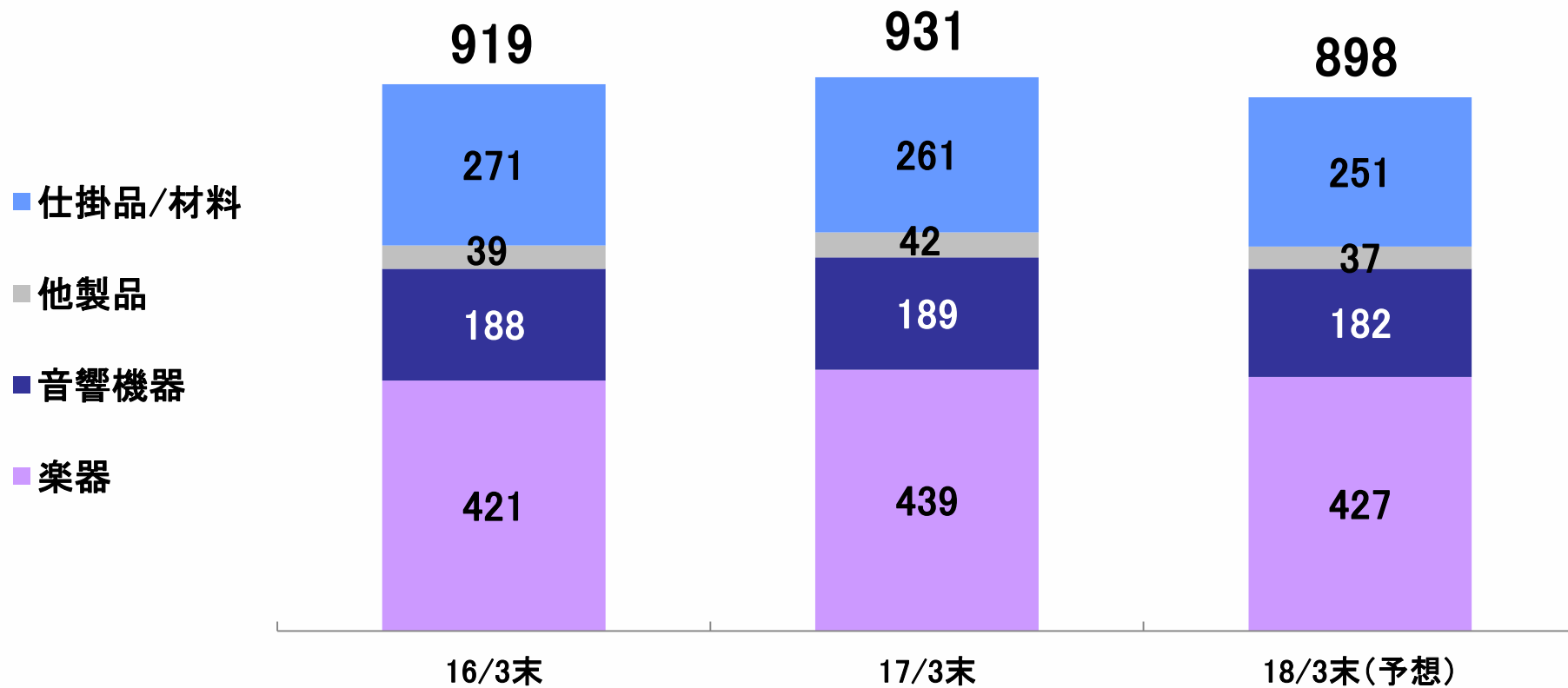
➤ 最近の損益改善に伴い17/3期は繰延税金資産135億円を計上

棚卸資産

➤ 17/3期末総在庫は931億円 4Qで削減進むも対前期で増加

(億円)

➤ 18/3期末総在庫は898億円を予想



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲24

為替影響額 (億円)	
前期比較	▲9

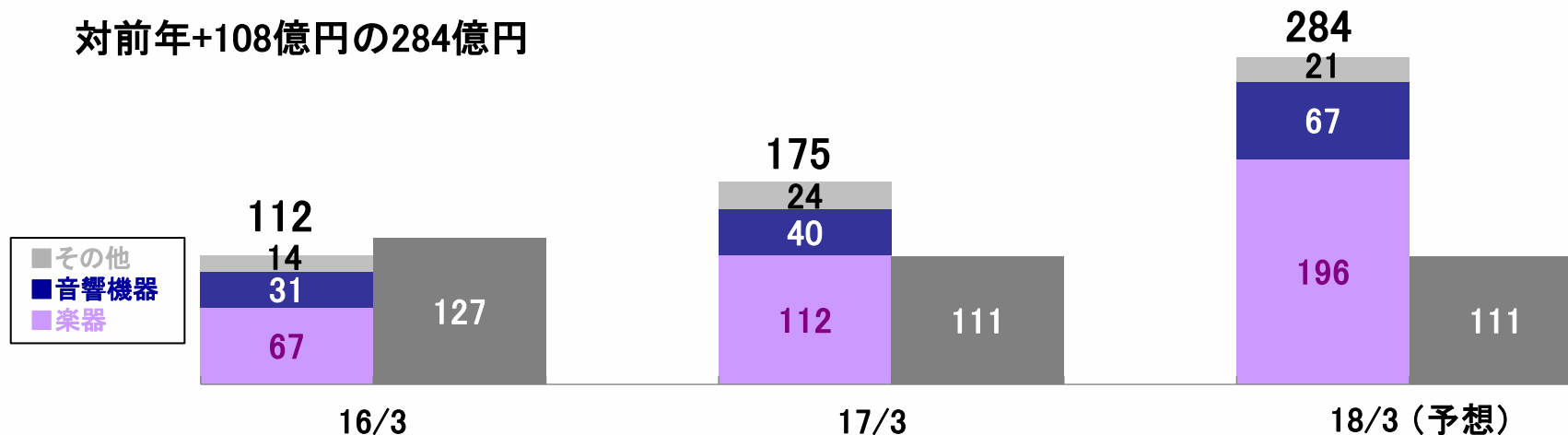
*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

設備投資額・減価償却費/研究開発費

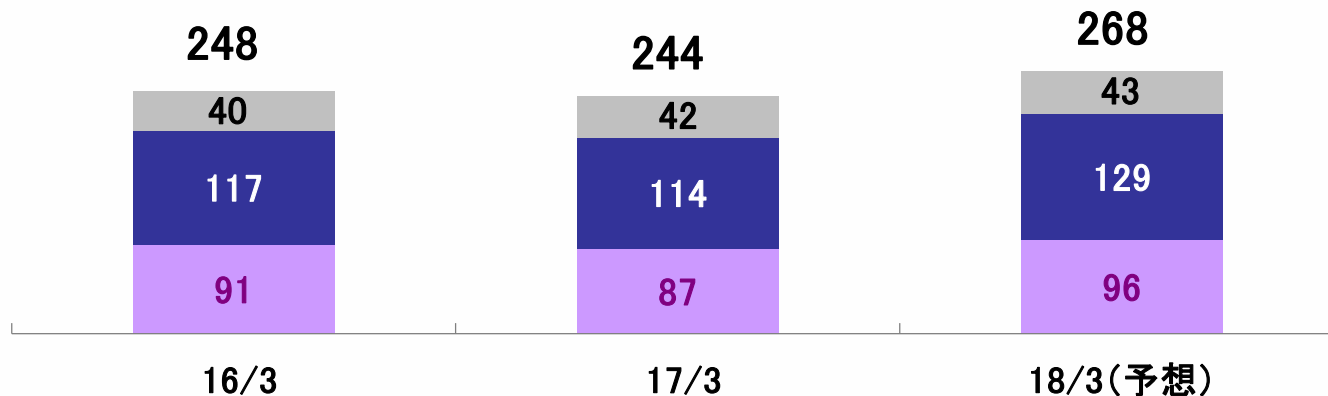
設備投資額(減価償却費)

(億円)

▶18/3期設備投資は、本社新開発棟工事、海外新工場設立に係る設備投資等で、
対前年+108億円の284億円



研究開発費



*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

貸借対照表



(億円)

	16/3末	17/3末	18/3末 予想
現金	882	1,059	1,192
売上債権	478	498	520
棚卸資産	919	931	898
他流動資産	272	239	260
固定資産	2,146	2,497	2,670
資産計	4,697	5,224	5,539
仕入債務	194	178	182
借入金	85	112	115
他負債	1,379	1,260	1,259
純資産計	3,039	3,674	3,983
負債純資産計	4,697	5,224	5,539

経営数値推移



	15/3	16/3	17/3	18/3	中計目標 19/3	(億円)
売上高	4,322	4,355	4,082	4,270	4,650	
営業利益	301	407	443	485	550	
営業利益率	7.0%	9.3%	10.9%	11.4%	12%	
ROE	8.1%	10.1%	14.0%*	10.2%	10%水準	
EPS(円)	129	169	249*	208	200円水準	

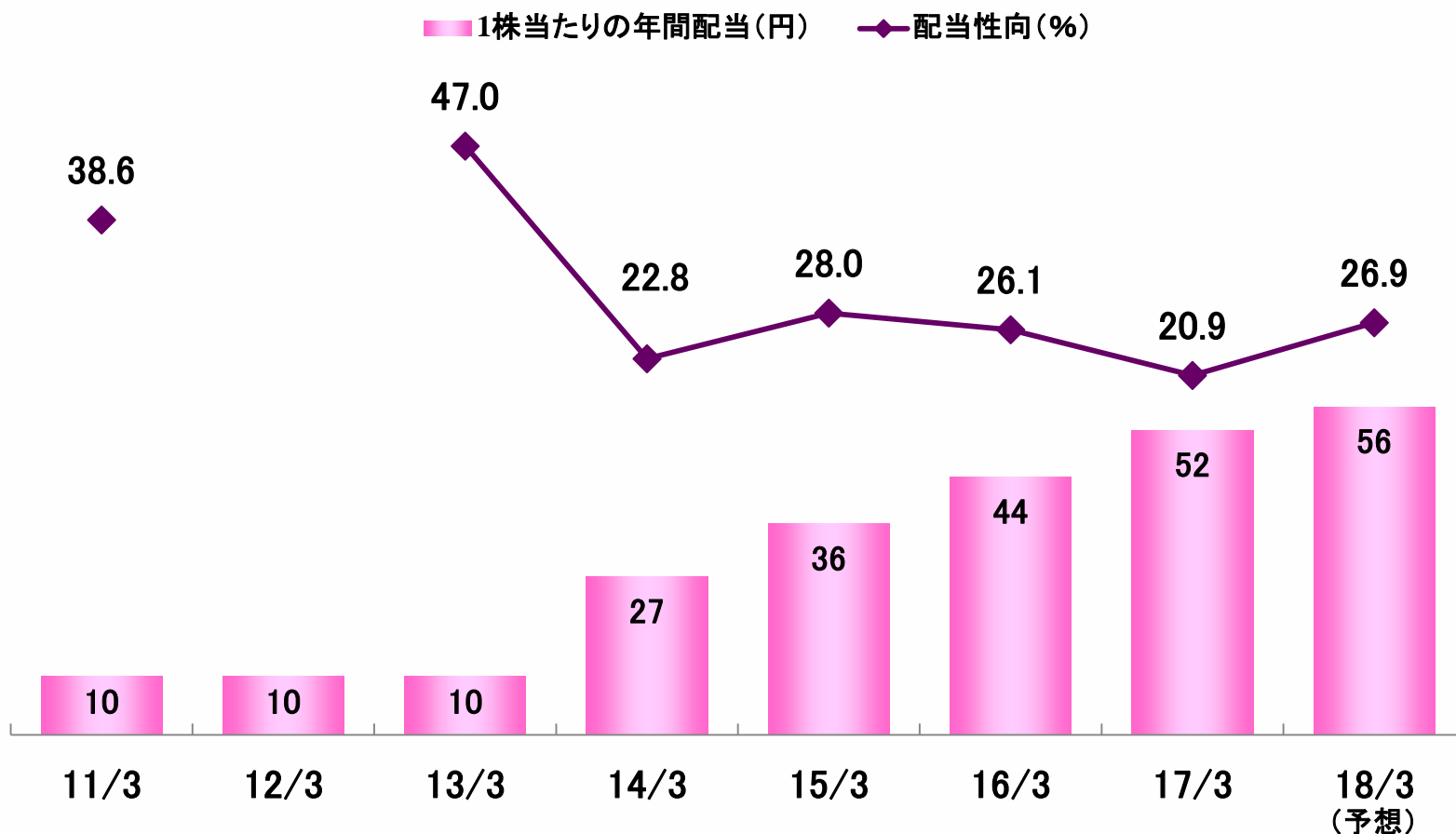
*2017/3期 ROE, EPSは繰延税金資産計上による当期利益の増加による

為替レート (円)

売上高 (期中平均)	US\$	110	120	108	110	115
	EUR	139	133	119	120	125
利益 (決済レート)	US\$	109	121	108	110	115
	EUR	141	134	121	120	125

➤ 2017/3期の年間配当は、52円 4年連続の増配

➤ 2018/3期の年間配当は、56円を予想



* 税効果影響を除外した17/3期の配当性向は29.4%(参考数値)

移行の目的

経営における監督と執行の分離を一層明確にし、取締役会による監督機能の強化と執行のスピードアップを図るため

移行後の体制

■ 監督機能の強化

- ・取締役会の構成 9名で構成（社外取締役を3分の2の6名とする）
- ・法定の指名委員会 監査委員会 報酬委員会を設置
（各委員会は社外取締役が過半数）

■ 執行のスピードアップ

- ・執行役の新設 7名体制 取締役会から執行役へ大幅な権限を委譲

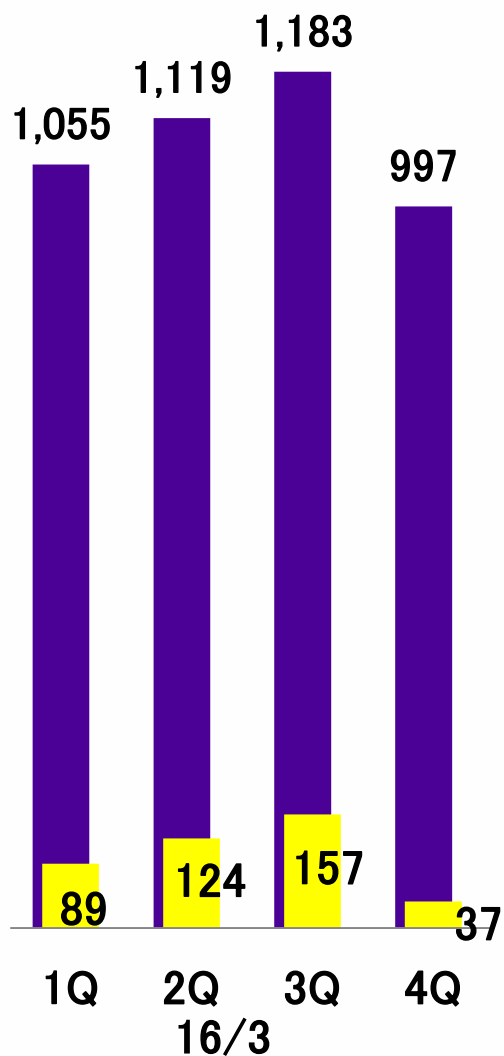
*6/22開催の株主総会承認後移行予定

付属資料

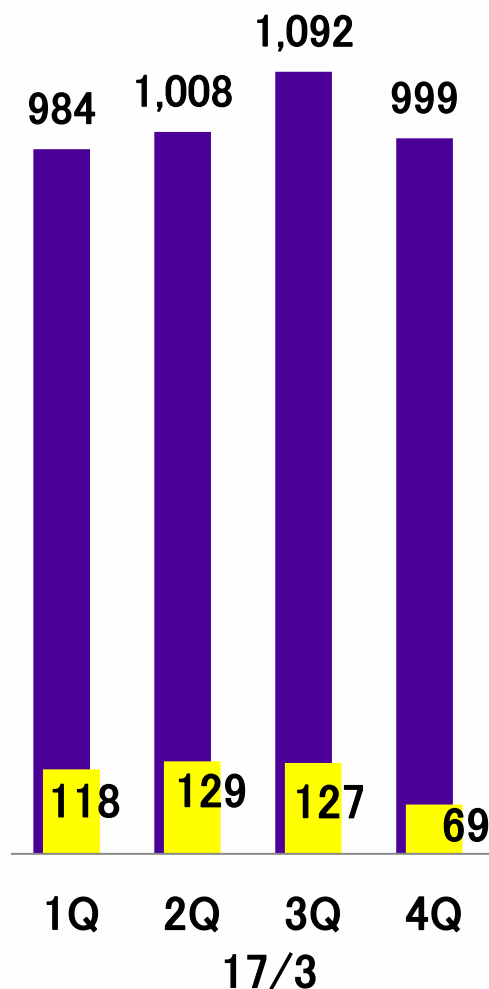
四半期別売上高／営業利益



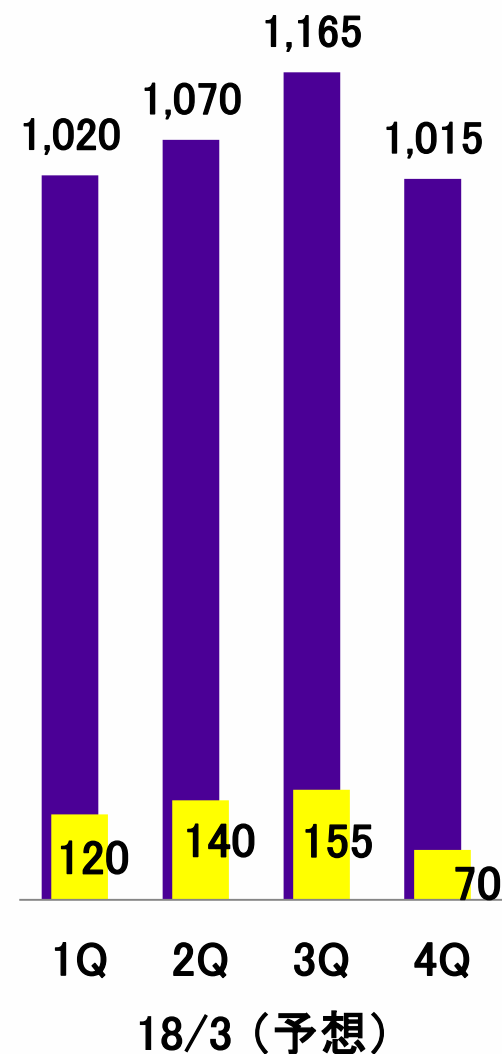
(億円)



売上高(通期)	4,355
営業利益(通期)	407



売上高(通期)	4,082
営業利益(通期)	443



売上高(通期)	4,270
営業利益(通期)	485

多彩な自動演奏コンテンツでリスニングの楽しみを広げる
自動演奏機能付きアコースティックピアノ
ヤマハ『ディスクラビア エンスパイア』

2016年
12月発売

「ディスクラビア」は、アコースティックピアノとして演奏するだけでなく、ヤマハ独自の高精度デジタル制御システムで、鍵盤やペダルの動きを正確に再現する自動演奏機能を搭載した、ハイブリッドピアノです。

500曲のバラエティ豊かな自動演奏のピアノ曲データを内蔵し、従来のアンサンブル伴奏データに加えて、今回、オーディオ音源も再生できるデータを初搭載しました。



ヤマハ ディスクラビア エンスパイア
『YUS1ENST』
1,530,000円(税抜)



ヤマハ ディスクラビア エンスパイア
『C3X-ENPRO』
3,700,000円(税抜)

disklavier **ENSPIRE™**



電子ピアノの主力商品「CLPシリーズ」の3年ぶりのモデルチェンジ ヤマハ電子ピアノ クラビノーバ『CLP-600シリーズ』

2017年
5月発売

– 20年ぶりにアクション機構を大幅刷新した新鍵盤「GrandTouch鍵盤」を搭載 –

「クラビノーバ」CLPシリーズは、ヤマハのピアノづくりの感性と技術を活かして、グランドピアノに迫る演奏感と弾き心地を実現した電子ピアノです。

“演奏者のイメージした通りのタッチと音で、さまざまな表現ができること”を目指して、ピアノの演奏感に大きな影響を与える鍵盤のアクション機構を20年ぶりに刷新しました。

新たに開発した「GrandTouch鍵盤」は、強音から弱音まで幅広く表現できるだけでなく、鍵盤の奥の部分のタッチ感まで向上させ、アコースティックピアノにより近づいた弾き心地を実現しました。



クラビノーバ『CLP-685PE』
420,000円(税抜)



バイクや日本的な意匠を連想させるデザインと、粘りのある骨太サウンド

ヤマハ エレキギター『REVSTARシリーズ』

ギター製造50周年、新たな発想で開発した個性的な新シリーズ

2016年
6月発売

『REVSTARシリーズ』の特徴的なボディシェイプは、ヤマハエレキギターの代表的モデル「SGシリーズ」や、70年代に発売され愛好者の支持を集めたエレキギター「SFシリーズ」のDNAが受け継がれています。さらに、上位モデルの『RSP20CR』『RS820CR』には、1960年代のロンドンで生まれたカスタムバイクのスタイル「カフェレーサー」をイメージしてレーシングストライプをアレンジした2本のラインがボディに施され、バイクの機敏さを感じさせるデザインになっています。

また独特な外装については、日本の伝統色と工業用の技術、素材から着想した深みのある色調を実現しています。最先端の技術を駆使しながらも、日本的な意匠を感じさせるギターデザインに仕上げています。



REVSTARシリーズのハイエンドモデル
『RSP20CR RRT』
220,000円(税抜)

ギターの生音に、アンプを使わずにリバーブ等のエフェクトを直接かけられる

ヤマハ『トランスアコースティックギター』

2016年
11月発売

ギター本来の音と一体となって響く心地よい自然なエフェクトで、新しい演奏体験を実現

アコースティックと同じ発音方式で音を響かせる技術「TransAcoustic」を搭載し、ギターの生音にアンプを使わずにリバーブ等のエフェクトを直接かけられるため、ギター本来の音と一体となって響く心地よい自然なエフェクトで新しい演奏体験を実現します。



トランスデューサー
(加振器)



TransAcoustic™

ヤマハのエレクトロニクス分野とアコースティック分野のノウハウを掛け合わせた、ヤマハ独自の技術「TransAcoustic™」を応用した新しいギターです。

最大の特長は、アンプやスピーカーを用いずに、ギター本体だけでエフェクトをかけた演奏ができることです。

弦等の振動を電気信号に変換してエフェクト処理し、ギター内部に搭載した「加振器」に伝え、ギターボディを振動させることによってエフェクト音が生まれます。

実音とエフェクト音が一体となってギター全体で響くことで、自然で心地よい響きを得られます。

ヤマハ トランスアコースティックギター
『LL-TA VT』
150,000円(税抜)

大規模ライブコンサートにおける音響システムの新世代フラッグシップ ヤマハ デジタル・ミキシング・システム『RIVAGE PM10』

2015年
12月発売

ヤマハ初のプロフェッショナルコンソールPM200から40余年、PAミキサーの歴史に幾つものマイルストーンを刻んできたPMシリーズ。それらが生み出した数多くのイノベーションは、やがてスタンダードとして定着し、世界中のプロエンジニアの仕事を支え続けています。

そしてここに、新たな「PM」—RIVAGE PM10が満を持して登場しました。

サウンドクオリティ、操作性、機能、信頼性、拡張性等、あらゆる要素を徹底的に磨き抜いた、真のフラッグシップ。世界が認める「PM」の名にふさわしい新世代のミキシングシステムが、進化を続ける現代のPAシーンに次なる革新をもたらします。



期待の戦略商品

カフェやレストラン等のインテリアに溶け込み、心地よいBGM再生を実現
ヤマハ スピーカーシステム『VXS1MLB』『VXS1MLW』
サブウーファー『VXS3SB』『VXS3SW』

2017年
6月発売



スピーカーシステム
『VXS1MLB』(写真右)
『VXS1MLW』(写真左)
10,000円(税抜)



サブウーファー
『VXS3SW』
30,000円(税抜)



レストラン・アパレルショップ・ホテル等、さまざまなシーンで心地よいBGM再生を実現するスピーカーシステム『VXSシリーズ』における最もコンパクトなモデルです。

手のひらにのるコンパクトなサイズでありながら高品位な音楽再生を実現するのはもちろん、別売のマウントアダプターを利用することで、天井埋込みや照明レール取り付け等、空間のインテリアに合わせたさまざまな設置方法に対応しています。



VXSシリーズ導入事例(銀座・伊東屋様)

これからのHiFiスピーカーの理想を示す3ウェイブックシェルフスピーカー
ヤマハ HiFi フラッグシップスピーカー『NS-5000』

2016年
7月発売



プレミアムブックシェルフスピーカー
『NS-5000』
1,500,000円(税抜・2本)



ヤマハの次世代技術を結集し、ノンカラーレーション、ワイドレンジ、全帯域にわたる一貫した音色、そして圧倒的な低音を実現。

ハイレゾ時代のフラッグシップスピーカーとして当然備えるべき資質をひとつひとつ科学的に究明し誕生させた、ヤマハの考えるHiFiスピーカーの未来がここにあります。

クリエイティブな創作意欲を高める最先端の音楽制作環境を実現 Steinberg社 ソフトウェア『Cubase 9』

2016年
12月発売



『Cubase Pro 9』『Cubase Artist 9』『Cubase Elements 9』は、作曲、アレンジ、レコーディング、波形編集、ミキシング等、現代の音楽制作におけるあらゆる場面をサポートする総合音楽制作ソフトウェアの最新バージョンです。

1989年に「Cubase」を発売して以来Steinberg社が培ってきた技術を集結し、最高の音楽制作環境を追求し、より強力なデジタル・オーディオワーク・ステーションソフトウェアとして進化しました。

オーディオやMIDI等、あらゆる音楽制作スタイル/ワークフローに対応し、作業効率を向上させるさまざまな進化を遂げています。

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。